

ほんのしるべ

新標

2024.
10月号

2024年10月5日発行（毎月1回5日発行）
通巻550号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可



ギリシャ・アテネの書店街

ノセ事務所

能勢 仁

前回まで四回にわたってアジアの書店街を紹介したが、ヨーロッパの書店街も紹介しよう。

日本一の古書店街・神田神保町の書店街は世界的にも珍しく、靖国通りとすずらん通りの二本を中心とした書店街であるが、ギリシャ・アテネには三本の通りがある。メイン通りは大学通りで、国会図書館に隣接してアテネ大学と学士院がある。道をはさんで大型店のエレフセロダキス書店があったが、先年惜しまれつつも閉店となった。この通りには品揃えのよいカウフマン書店他多くの書店がある。ある書店では十箇のウインドウに面展示された古書すべてに価格が表示されていた。二本目はアカデミー通りで、アテネ大学の学生が通用門から出入りして



いた。この辺はアパートが多く、学生街である。この通りの一番店は老舗のバタキス書店である。一階（文芸書と学習書）は一七〇坪、地下売場（ことの本と文具）もあるから三〇〇坪以上の書店である。二階には喫茶席がある。

三本目はソロノス通りである。この通りの書店は出版社直営の店である。中規模が多く三十坪〜八十坪で、自社出版物をウインドウに陳列していた。三つの通りの長さは、いずれも約一キロメートルである。ポルトガル・リスボンのカルモ地区の坂道の地形に二十店近くの古書店が軒を連ねていた。どの店も床から天井まで本で埋められていた。店先に出されていた本は一冊ワンコイン、この売り方は万国共通である。

一九四三年十月の月曜日。空を飛ぶ鳥のように
 浮き立った美しい日だった。僕らはまずジョー・
 ベルの店でマンハッタンを飲んだ。僕のめてたい
 ニュースを耳にすると、彼はシャンパン・カクテル
 をごちそうしてくれた。そのあとで僕らはからから
 と五番街まで歩いていった。そこでは行進が行わ
 れていた。風にはためく国旗も、軍隊の奏でる
 威勢の良い音楽も、その靴音も、戦争とは無縁の
 ものに思えた。それは僕の栄誉をたたえるための
 ファンファーレに聞こえた。

トルーマン・カポーティ著／村上春樹訳

『ティファニーで朝食を』（新潮社）より



もくじ

世界の本屋さん 153

「書標」歳時記〈10月〉

著書を読む⑧ 『アンチ・ジオポリティクス』

——資本と国家に抗う移動の地理学——

北川 真也

1

書標・書評 『検証 政治とカネ』ほか

特集 「この」翻訳がスゴイ！

今月のおすすめ

社会科学	12	コンピュータ	14
自然科学	15	医学書	16
人文科学	17	文学・芸	18
文庫・新書	19	芸術	20
実用書	21	地図・旅行書	21
語学・辞典	22	児童書	23
読者から			
インフォメーション	24		
本屋うらばなし	26		

※表示価格はすべて税込み価格です。

『アンチ・ジオ・ポリティクス——資本と国家に抗う移動の地理学』

北川 眞也



とある中学校の社会科教師の方から教えてもらった。授業で白地図に色を塗る作業をしてもらうと、日本の領土の色を近隣諸国にまで拡大して塗る生徒がいるという。かつての帝国日本の領土をなぞるかのごとく。「これくらい国が大きくなってほしいです」。無邪気、と言いたくなる。でもそのままざしは、すでに社会化され、国民化されたものである。それは帝国日本の植民地主義を支えた

大人の目線と重なる。そして、おのれの国家・領土を中心に置いた地政学の目線と重なる。かつて領土の拡大を進めた大人たちもまた、ある意味では「無邪気」だったのだろう。配布された地図の「空白」におのれが自在に色を塗り込めるように。だが実際には、この大人たちもよく知っていた通り、そうした行為は土地を略奪し、叛乱を制圧し、人びとを殺戮するものでしかなかった。イスラエルがパレスチナの地を暴力的に塗り替え続けている通り、今もそれは同様である。

世界は白地図ではないのだ。いや、そもそも世界は地図ではない、はず？

明日、車で桑名のとある場所まで行かねばならない。道順については何も知らない。さあグーグルマップの出番だ。出発地と目的地をちよちよいと入力だ。適切な移動ルートを瞬時で自動で示してくれる。運転中もリアルタイムで音声案内してくれる。これ

で迷子にならない。時間を無駄にしない。スマホの地図を見ればよい。まるでおのれの身体は周辺環境から切り離されているかのようにだ。周辺の地理など知る必要はない。スマホの地図の上を進んでいくだけでよい。便利だ。タイパだ。地図は万能！ 地図は現実をすべて完璧に映し出してくれる！

本書『アンチ・ジオ・ポリティクス』では、世界を二次元の地図、固定された平面の地図へと還元する権力を批判的に問うている。世界は地図にはならない。地図を見るとき、上空から街を一望するかのような位置に立つ。でもその街よりも広い三重県全体を一望したい。もっと上空へと舞い上がれ。日本全体が見たい。もっと上空へ舞い上がれ！ 世界全体を見たい。もっと上空へ！ さあ、世界のいつさを見下ろせる。思い出そう。「地球は丸い」。地図のように世界はまなざせない。だからほんとうは、地図に世界が映し出されるのではなく、世界が地図のように、いや地図そのものとしてつくりあげられてきたと言わなければならない。なんにせよ、この地図化の権力は、この世には存在しない視点、いわば神の視点を可能とするのである。

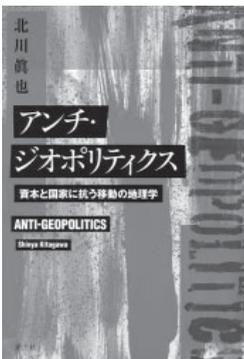
しかしまさにそれゆえに、この「地図学的理性」は、すべてを客観的に完璧に可視化できると自負し、それを実現しようとする。大地が主権や私的所有によって力づくで境界づけられ、占有され

てきた以上、地図学的理性は国家とその地政学と同時に、資本とその地経学を下支えるものでもある。イタリアから本をワンクリックで注文してみた。驚くのは、その商品が今どこにあるのか、どう移動しているのかが、企業側のみならず、一消費者にすらわかるようになってきていることだ。メールで送られてきたアドレスを開くと、確かミラノ、フランクフルト、香港、名古屋とあった。なんなら、自宅という地球上の「一点」にまで届く「タイミング」を教えてくれることすらある。配達の日タイミングを指定できることすらある。すべての移動は計算可能、可視化可能、地図化可能。毎日の無数の商品の移動、大多数の人の移動であろうと同じこと。国家も資本も、地図万歳！

この調子で新型コロナウイルスの動きも地図化可能、ばらまかれる放射性物質の動きも地図化可能——では些かもなかった。ウイルスであれ放射能であれ、その流動は統治不能、可視化不可能だった(CO2とAという新型コロナウイルス接触確認アプリや、放射能拡散予測システムSPREDIを覚えていたのだろうか)。そもそも、商品の生産はもとよりそのグローバルな移動には、無数の労働の搾取があり、無数の労働の拒否がある。商品は労働なしに自動で運ばれるわけではない。その滑らかにみえる移動は、労働の拒否ゆえに遅延を強いられ中断されうる。商品は自宅まで来ないかも。「テロリスト」はどこか？ わからない。かれらを探し出すとして結局、その土地の住民を手当たりしだいに捕獲、収容、殺戮していく。ガザで引き起こされているように。日々、海、砂漠、上空、国境を越えていく移民・難民の移動の地理。とても予測も把握もできない。国家と資本主義がつくりだす地図的世界は、アーキーとしか言えない蠢きによって掘り崩されている。地政学は地上へ、大地へと引き摺り下ろされている。

本書は、われわれが住むこのような世界について、特に地球規模の地理について、二十年以上前になんとか研究をはじめてから考え、調べ、読み、議論し、また考えたことを様々に詰め込んだものである。「詰め込んだ」——刺激を受けた数々の理論、関心を持った数々の主題、そして主にイタリアの都市や郊外、山や島の各地で調べてきた数々の事柄、出会った人たちが話してくれた数々の内容。これら散らかった話を一冊の本としてまとめあげるのは、もう無理だなど思っていた。けれども、本書を編集してくれた山口さんと何度もあれこれ話をするなかで不思議と浮かび上がってきた魔法の筋書きが、地図学的理性とそれに基づく地政学的権力への問いと、それを逃れたり転覆したりしようとする人びとの土地を越えて伸びる、土地を越えて共鳴する欲望、流動、運動との間の関係、ズレ、敵対である。

地政学は、世界を見下ろし、地理を固定し、世界の行方を占おうとする。本書は、地政学とはまるで異なる世界の豊かな地理を描き、その視座では決して捉えられない世界の多数の今を伝えるものだ、と思いついて言っておこう！



『アンチ・ジオポリティクス
資本と国家に抗う
移動の地理学』
青土社・4,400円



「検証 政治とカネ」

上脇博之著

岩波新書・九九〇円

政権党の裏金問題。それは、直後の選挙で自民党に連敗をもたらし、現職総理に再選・統投を断念させた。本来、続く総裁選挙の最大の争点になって然るべきだが、予想通り各候補者の言及は少ない。ひたすら「国民の皆様への信頼を取り戻す」と虚しく連呼するばかりである。

確かに党総裁選挙は公選ではなく私選ではあるが、事実上日本のトップを選ぶ選挙であり、国民の注目が寄せられている。政治家たちが「そのうち忘れる」と国民を舐めきっているのか、不当な収入を当然の役得と心得る感覚が染み付いているのか？（公職選挙法の適用もない私選ゆえ、懲りもせずに札束が飛び交っているのか？）それを、国民の側も半ば諦め、共有してしまっているのか……。

本書で上脇博之は、政治家がいかにして、どんなカネを日常的に手に入れていくかを、丁寧に教えてくれる。政治家たちはそれを合法的なものとして強弁するが、

上脇は、そもそも政党助成金からして憲法違反であるという。90年代の政治「改革」によって定められたそれは、かの金丸信でさえ「泥棒に追い銭だ」と言った。その時に禁止された企業献金が、様々な抜け道を見つけて続行されることが明らかだったからだ。

カネは、権力の強烈な磁場に引きつけられる。そして、権力のために使われる。上脇は、諦めない。その多くが検察によって不起訴、起訴猶予とされようと、次々に情報公開請求し、刑事告発していく。その件数は、優に百を越えるという。

政治家が最も恐れるのは、落選である。切り札は有権者が握っているのだ。

上脇に学び、上脇に倣い、「政治とカネ」を厳しく監視、糾弾していこう。（フ）

『透明マントのつくり方』

グレゴリー・J・グバー著

水谷 淳訳

文藝春秋・二五三〇円

「科学」というと「客観的」「現実的」というイメージがある。しかし、そういった要素に下支えされていても、発想や試行錯誤の結果出来上がった技術が、これまでの「当たり前」を超えていて奇想天外に思えることがある。

外に思えることがある。

むしろ考え方は逆で、自由な発想や夢の技術を実現するために、客観的で現実的な理論を積み重ねるのかもしれない。

本書は「不可視」の科学史を、SFを絡めて紐解く。民話では、「透明マント」や「透明帽子」という魔法のようなアイテムが出てくるし、もっと最近では道具の使用によって不可視となるのではなく、存在そのものが不可視となってしまう「透明人間」のようにフィクションにおいて不可視はよくあるテーマだ。

そして、エンターテインメントにおいて人が不可視を望む原動力は極めて人間的だ。普段侵入できない場所に入りたい。秘密を手に入れたい。そんな「よくわからないけどあったらいいな」を量子物理学や赤外線、光の波動、電磁波、エックス線、光を歪ませる「メタマテリアル」など最新の技術で説明している。

そのアプローチは様々で、「夢の技術」をとっかかりに、こんなに理論や技術、研究があるのだという驚きがある。

「できるかも」という可能性とワクワクを担保する楽しい一冊だ。

付録として、自宅で物体を見えなくす

る方法がいくつかと、不可視性をテーマにした小説が付いているのも嬉しい。(海)

『答えは旅の途中にある』

小手鞠るい著 あすなろ書房・一七六〇円
本書は、主人公エレナと道生の旅を通して少年少女らしい様々な感情が素直に書かれていてとても気持ちよく読める小説です。著者は多くの小説を世に送り出してきましたが、同時に詩人の顔も持つていて、小説で語られる言葉もいつも詩のような、言葉が読むほうの感情に直接訴えかける説得力があり、著者の作品に通底する魅力になっています。

主人公エレナが、事故で亡くなった母が「人生という名の旅」について語ってくれたことをなつかしく思い出している冒頭の場面のと書かれる「人は死んでも、人の言葉は死なない」という短い一文で、エレナにとつてその時の母の言葉が強く心に残っていることを端的に表しているだけでなく、読んでいるわたしたちにも各々の中に生きている言葉を想い起こさせる力があるように感じます。

この本をわたしは文芸書コーナーで見つけましたが、実は少年少女向けの児童

書でした。作品は全編、エレナはテキサス州エルパソからニューヨーク州ウッドストックへ、道生は逆にウッドストックからエルパソへの旅が交互に描かれています。どちらのパートだけでも楽しく読めますが、二人のそれぞれの旅が一度だけマンハッタンで交差し、数十分だけの出会いが忘れられないものになります。

『正しいって何?』『自由って何?』彼らは旅の続きでも自分に対していくつも問いかけることになり、物語のなかで解決はしません。自分への問いかけを経ることが大きな成長を予感させる一級のジュブナイル小説に仕上がっています。(曇)

『昭和天皇拝謁記』を読む』

古川隆久ほか著 岩波書店・二八六〇円

令和の幕開けとはほほ時を同じくして、日本近現代史上、極めて重要な史料がNHKのスクープによって世に知られることとなった。初代宮内庁長官・田島道治が600回超の昭和天皇拝謁の様子を克明に記した記録である。田島の遺族によって公表された十八冊に及ぶノット・手帳の全文は、現在では岩波書店より『昭和天皇拝謁記』(以下、「拝謁記」とし

て出版されている。もともと田島自身はこの記録の公開を意図しておらず、それ故に公式記録には残り難い、生身の人間としての昭和天皇の「肉声」を知ることが出来る。その九割はかの『昭和天皇実録』にも記録がないものであり、昭和天皇、そして戦後の天皇制を研究する上で必読の史料といっても過言ではない。その解説書が満を持して登場した。

本書は「拝謁記」の編集委員をつとめた、この分野の代表的な研究者たちによって書かれている。現状、この史料を解説する本の執筆陣としてはこれ以上ない布陣であろう。史料として「拝謁記」を熟読玩味するための副読本として好適な逸品である。「拝謁記」自体には興味はあるものの原典に挑戦することに壁を感じているひとは手がかりとなる。

十四本のコラムも興味深く、読み物としての面白さも備えている。新たに発見された史料がなにを物語っているのか。そこに描き出されている戦前戦後の日本政治史や天皇制、昭和天皇の姿をどう読み解いていくのか。奇しくも改元という新たな時代の幕開けとともに世に出た「拝謁記」。興味は尽きない。(仙)

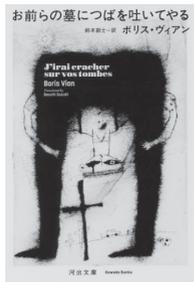


翻訳者のお仕事つてめちゃくちゃすごい。同じ作品を訳しても、訳す人によって全く違う本になるんです。

文体や訳語の選び方から、作品の設定の根幹に関わる解釈まで。原典あつての訳であることはもちろんなのですが、今回はより、「翻訳」のお仕事のすばらしさに注目してみようという企画です。

書店員・編集者・出版営業など本を愛するメンバーに、「翻訳書を読むならコレ！」という推し本を挙げてもらいました。秋の夜長の読書ガイドとして、お役に立てましたら幸いです。

※選者名五十音順。



『お前らの墓につばを吐いてやる』

ボリス・ヴィアン著／鈴木創士訳
『お前らの墓につばを吐いてやる』

(河出文庫・一〇二二円)

架空の黒人作家をでっちあげ、白人の

娘に恋をした「罪」で死んだ弟の復讐を企てる男を描いたヴィアン。本作は発売禁止処分を受け、のちに映画化されるもヴィアン自身のシナリオは拒否され、そのうえ彼は完成した映画の試写会場で心臓発作を起こして死んだ。小説の内容も、それにまつわるエピソードも、あまりに不穏で不吉。



『美しく呪われた人たち』

F・スコット・フィッツジェラルド著／上岡伸雄訳

『美しく呪われた人たち』

(作品社・三三二〇円)

デビュー作『楽園のこちら側』と永遠の名作『グレート・ギャツビー』の間に書かれた長編第二作。刹那的に生きる「失われた世代」の若者たちを絢爛たる文体で描き、栄光のさなかにある自らの転落を予言した恐るべき傑作。著者の五作品

しかない長篇のひとつでありながら、二〇一九年まで邦訳が刊行されなかった不思議な小説。
(作品社・青木誠也)



『トゥーサン版ルバイヤート』

オマル・ハイヤーム原著／高遠弘美訳

『トゥーサン版ルバイヤート』

(国書刊行会・二八六〇円)

「恋人よ、その柔肌を／我が身に寄せて／酒をくれ／酔ひしれるうち／せめても私は忘れたいのだ／蒙昧無知なる人の宿命を」(第二歌)。一見すると酒飲み音頭のような歌が多くてしめしめと思うかもしれませんが、じっくり味わうと、現実を耐えられるものにするために「酔ひ」、そこから翻って「生の側に引き寄せる力」を感じ取れるはずです。

マルセル・ブルースト著／高遠弘美訳

『失われた時を求めて』

(光文社古典新訳文庫・①一〇五六円)

ブルーストを読むのにあらずしも挫折の心配も不要だと訳者は言います。一生をかけて味読すべき作品であるから、慌てて読み進めなくていい。博大な教養と彫琢された訳文に導かれて、私もブルーストと暮らしています。「私たちは誰でも、現実を耐えられるものにするために、身のうちに若干の小さな狂気を養わざるを得ない」(「花咲く乙女たちのかげに」)。

(法政大学出版局・赤羽健)



『失われた時を求めて』

マルセル・ブルースト著／高遠弘美訳

『失われた時を求めて』

(光文社古典新訳文庫・①一〇五六円)

高遠先生は「ブルーストが今、新刊を出しているような気持ちで読めるように」という思いで訳されているそう。今まで読めなかったことを嘆かず、通読を

義務にせず、手にとれる幸福を噛みしめています。(至十四卷中六巻が既刊併走も間に合います!)ブルーストの新刊を書店で手にした、当時のパリの人々に思いをはせながら。



『ソクラテスの弁明』

プラトン著／納富信留訳

『ソクラテスの弁明』

(光文社古典新訳文庫・九九〇円)

「無知の知」の訳では、ソクラテス哲学をほんとうには理解できない。納富先生は「不知の自覚」と訳します。その心は――。死刑を求刑された哲学者は裁判で何を語ったか。生き方を問いかける作品です。(途中ソクラテスが「犬に誓って申します」って前口上を言っていて、そこもいいです)

エーリヒ・ケストナー著／池内紀訳

『飛ぶ教室』（新潮文庫・五七二円）

ドイツの、ギムナジウムに暮らす生徒たちのクリスマスを描いた小説。作中で出てくる曲があったことが大嫌いな先生の呼称、長らく「正義さん」「正義先生」と訳されていたのを、池内紀さんは「道理さん」と訳しました。そうそう、この先生は社会的な正しさをじゃなくて自分の中で納得がいくかどうかを重視していると思います！



『飛ぶ教室』

V・E・フランクル著／霜山徳爾訳

『夜と霧』（みすず書房・一九八〇円）

ヴィクトール・E・フランクル著／池田

香代子訳

『夜と霧 新版』（みすず書房・一六五〇円）

新訳が出たとき、霜山さん訳は絶版になっちゃうのかな……と思っていたら、みすず書房さん、残してくださるんです

ね!? 霜山さん訳は、資料が充実。生々しい写真もあり歴史を知りたい方に。池田さん訳は未来に伝える強い意志がみなぎっています（底本も異なる）。両方最高にすばらしく二冊ともをご紹介したいと思います。



『夜と霧』



『夜と霧 新版』

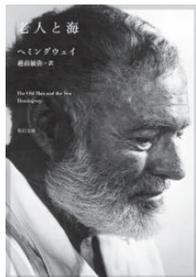
ヘミングウェイ著／越前敏弥訳

『老人と海』（角川文庫・七七〇円）

研究者の方の間では、この本にでてくる「少年」が何歳なのか議論されていたとか。たしかに、従来の訳では十二歳くらいのイメージですが、それだと所々

違和感が……。今村権夫さん訳（左右社）では「若者」とされ、越前さん訳では十八、十九歳くらいが想定されています。みなさんはどう思われますか？

（KADOKAWA・麻田江里子）



『老人と海』



『カフカ断片集』

カフカ著／頭木弘樹編訳

『カフカ断片集 海辺の貝殻のようにう

つるで、ひと足でふみつぶされそうだ』

（新潮文庫・六九三円）

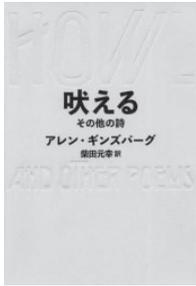
カフカの断片は、お得で、美味しい。ロールケーキの切り落としのように。小さいけれど、しっかりとカフカの味が広が

る。カフからしい謎が後を引くので、ついついバクバク読んでしまう。なので、凝らない、あっさりとした訳がいい。この本は断片だけを集めた理想的なアンソートセット。もう作品集の隙間からつまみ食いしなくていい。

オノ・ヨーコ著／南風 権訳

『グレイプフルーツ・ジユース』
(講談社文庫・七七〇円)

「ビートルズを壊した女」と今でも語られるオノ・ヨーコだが、作品に触れたことがある人は少ないかも。彼女はこのような言葉の作品で世界に衝撃を与えた。『Instructions (指示書)』という形式で、読者は概ねとんでもないことを指示される。それを想像上で行うと、不思議な気持ちになる。小さな言葉が日常に静かな裂け目を作るのだ。



『吠える
その他の詩』

アレン・ギンズバーグ著／柴田元幸訳

『吠える その他の詩』

(スイッチパブリッシング・一六五〇円)
これまで作品のみしか訳されていなかったけど、刊行後六十四年を経て、ようやく丸ごと一冊翻訳された。エビグラフも献辞も、W・C・ウィリアムズの皮肉っぽい序文も、この詩集の特異性を形作る一部となっている。柴田氏の訳も画期的。音楽ならアルバム単位で作品であるように、一冊単位の凄みを感じさせる貴重な本。
(WAVE出版・井本節山)



『心は孤独な狩人』

カーソン・マッカーラーズ著／村上春樹訳

『心は孤独な狩人』(新潮文庫・一一五五円)

村上春樹訳の刊行により、ようやく読める状況に。理解に飢え、孤独を抱える四人の主人公、そして彼らの話をニコニコとしながら受け入れる聾啞の元シン

ガー。それゆえに、心に餓いならしたはずの四人それぞれの孤独が浮かびあがる。そして、元シンガーの身にあることが起こったときに……続きは本書で！長いですが、気付けばラストです。



『夢みる宝石』

シオドア・スタージョン著／川野太郎訳

『夢みる宝石』(ちくま文庫・一〇四五円)

とても読みやすく美しい翻訳文体で、途中一切ダレることなく読み進められる。幻想的な世界観だが幻想小説とも言えず、未知との生物との接触があるのでSF小説さながらだが、どちらかというと青春冒険ファンタジー小説という、不思議だがとても気持ちのよい小説。(青土社榎本)

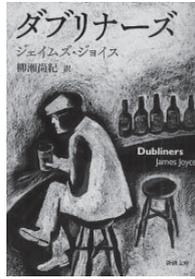
イーヴリン・ウォー作／中村健二、出淵

博訳

『愛されたもの』(岩波文庫・六六〇円)

『ブライツヘッドふたたび』（吉田健一 訳）の世界に浸る前に、この軽妙な中編からウオー文学入門がおすすすめ。翻訳タイトルからして『囁きの霊園』『華麗なる死者』『ご遺体』とバラバラ。映画化された時には原題のまま『ラウド・ワン』。ロス五輪の能天気が予測される西海岸を舞台にした葬儀屋ラブコメです。

（ベルリプロ・尾方邦雄）



『ダブリンナーズ』

ジェイムズ・ジョイス著／柳瀬尚紀訳
『ダブリンナーズ』（新潮文庫・七三七円）
それまでは〈ダブリン市民〉や〈ダブリンの人びと〉といった訳語に限られていたが、本作の登場により、邦訳のみならず呼称としても〈ダブリンナーズ〉が定着した。読みやすさや註の豊富さは先行訳に譲るが、なにより「ことばの魔術師」ジョイスのエスプリをそのまま受け継い

だ（あるいはそれ以上？）柳瀬訳に軍配を上げたい。（丸善ジュンク堂書店・鎌田伸弘）



『重力と恩寵』

シモーヌ・ヴェイユ著／富原眞弓訳
『重力と恩寵』（岩波文庫・一三五三円）
原書は既訳とおなじティポーン版だが、「カイエ」に戻って、よりヴェイユの意図に沿った解釈と補足を施したという「新訳」（だから分量は既訳の約二倍）。ティポーンがヨーロッパ人に分かりやすく編集したものに古今東西の民間伝承やオリエントの宗教への言及も補ったということなので、日本人にはむしろ理解の助けになるのではないかと思う。
（筑摩書房・喜入冬子）

カール・マルクス著／今村仁司、三島憲一、鈴木直訳
『資本論 第一巻』（上・下）（ちくま学芸

文庫・上一八七〇円、下二〇九〇円）
『資本論』は難解と言われるが、実はマルクスは名作家。原文の躍動感を生かした格調高い新訳が登場した。難しいのは最初の数章だけで、特に後半は当時のイギリス資本主義のドキュメント。十歳児に一日十数時間の労働を課す強欲資本主義へのマルクスの怒りがみなぎっている。この新訳には担当編集者K氏の貢献も大きいとのこと。Cheers!



『資本論 第一巻』上

ヘミングウェイ著／高見浩訳
『日はまた昇る』（新潮文庫・七三七円）
翻訳は原文とは別物。翻訳者の解釈と文体でつくられるもの。「いい訳」とは、単に自分にとって読みやすかったというだけではないか。ヘミングウェイは高見浩さんの新訳でよく読んだ。読みやすくて気持ちよく、『Switch』『Brutus』的

な世界観を満たしてくれた。それがヘミングウェイの正解かどうかは知らない。

(柴俊一)



『日はまた昇る』



『ドクトル・ジヴァゴ』

ボリス・パステルナーク著／工藤正廣訳
『ドクトル・ジヴァゴ』

(未知谷・八八〇〇円)

二〇世紀ロシアを舞台にした本物の「ロマン」であり、臆面もなく芸術でしかない小説。原作も翻訳も、共にさまざまな意味で反時代的であるが、本格的な持つ作品は反時代的にならざるを得ないことを改めて痛感させられる。造本や組

版に至るまで行き届いた心配りで作られた、愛蔵するにうってつけの、少し角の残った宝石である。(三省堂・瀧本多加志)

A・A・ミルン作／石井桃子訳

『クマのプーさん』

(岩波少年文庫・八六九円)

プーさんのとぼけた行動に、クリストファー・ロビンの子どもらしく飛躍のあるしゃべり、文化の違い……。じつは本作の原文は、非英語話者にとってはなかなかにむずかしいのです。訳は様々あれど、小学生でも楽しめて大人も深く味わうことのできる、趣きのあるこの石井訳が好きです。ぜひだれかに読み聞かせてあげてください。(岩波書店・辻内千織)



『クマのプーさん』

ポー著／小川高義訳

『黒猫／モルグ街の殺人』

(光文社古典新訳文庫・五九四円)

こんなに翻訳というのを忘れて語りに集中できた海外小説は今までにありません。しかも収録されている「邪鬼」――従来は「天邪鬼」――は自然に日本語の小説として読んで笑えたのが私の経験ではまさに珍事です。しかし小川氏の他の訳書を読んでもこうはなりませんでしたのでポーとの奇跡の合作です。

(丸善ジュンク堂書店・のじ)

ハーマン・メルヴィル著／千石英世訳
『白鯨 モービー・ディック 上・下』

(講談社文芸文庫・各二六四〇円)

のっけから笑える文体。登場人物の面白さ、ペーソスを最も軽妙に表現されていて、非常に読みやすい。

(丸善ジュンク堂書店・のじ)

*愛書家の楽園・特集「この」翻訳がス

ゴイ!」で紹介した書籍は、ジュンク

堂書店池袋本店一階エレベータ前、三宮

店五階、高松店レジ前、丸善京都本店地

下二階と岐阜店入口、博多店文芸書フェ

アコーナーにて、十月十日～十一月九日

までフェア展開中です。

今月の
おすすめ

社会科学

アテンション・エコノミーのジレンマ

山本龍彦著

デジタル社会の法秩序を研究している憲法学者の山本慶應大学教授と、ITやメディア、さらには認知神経科学の専門家たちとの対談と考察をまとめた良書。

SNSが普及し、日常に溶け込んでいる。その背後でアテンション・エコノミー（関心経済）、すなわち人々が貨幣ではなく「関心」を支払ってサービスを受けるビジネスモデルが確立し、企業は刺激的・魅惑的なコンテンツで人々の関心や時間を奪い合うようになった。巨大プラットフォームは野放図になり、表現の自由や民主主義までに影響を与えている。更にAIが加わることで、その弊害は無視できないものとなっている。

しかしこの弊害に気づくことで、民主主義の力でこの問題に挑戦できる。本書の対談と考察に改善へのヒントを見つけることができるだろう。

KADOKAWA

二九七〇円



ルポ 超高級老人ホーム

甚野博則著 全国各地に超富裕層を対象にした老人ホームが存在する。入居には厳正な審査のもと、億単位の入居費用を払える資産力が試される。豪華な部屋や食事に加えて超一流のホスピタリティを兼ね備えたこの施設、傍から見ると楽園そのもの。果たして本当にこの「超高級老人ホーム」は楽園なのか、その実情を追う元「週刊文春」のエース記者によるルポルタージュである。

特に気になったのが入居者の悩みについてだ。環境を整えたとして、結局悩みの種は人間関係だという。資産や業績のマウント合戦や噂の吹聴など、人間の性に翻弄されている。実情を覗き見すると、幸せとは

なんなのかを考える契機を与えてくれる。

ダイヤモンド社

一七六〇円



努力は仕組み化できる

山根承子著 努力とは何か？ 一般的に美しい苦労や頑張っているさまを客観視して「努力」という言葉を用いがちである。しかしそういった美談や根性論は人によって感じ方が異なり、また置かれた状況も多様である為、それらを一元化し、相対的に測ることは難しい。

これを論理的に捉え「仕組み化」をするのであれば、尚のこと具体性を持たせる必要がある。本書では「努力」を「将来の報酬のために今支払うコスト」として定義づけをし、行動経済学の見地から考えていく。

努力することに幸福感が得られない。

やらなかったことに対しての言い訳。過去にした努力が自分の思うほどの評価でなかった。など、誰しも思い当たるふしのある「努力が継続できない理由」を考察して解決していく。

日経BP 一八七〇円



離職防止の教科書

藤田耕司著

採用の強化、業務の効率化を図っても、離職率が高いままでは人手不足を解消できない。労働環境を整えたのに、昇進させたのになぜ離職してしまうのか。企業現場の戸惑いに、経営心理士である著者は原因となりうる「離職の心理」を四つに体系化することで最適なアプローチができる」と説く。社員が会社や上司に求めるものを把握し実現させれば離職の可能

性は減少し、人が辞めないことが組織の強みにもなる。社員が何を考えているかわからないと言う前に、一人ひとり向き合うことが必要である。最終章では「読んでも実践しない」を克服する方法まで言及されており、数々の職場を改善してきた著者だけに現実的である。

東洋経済新報社 一九八〇円

ニューノマド

フェリクス・マークオート著

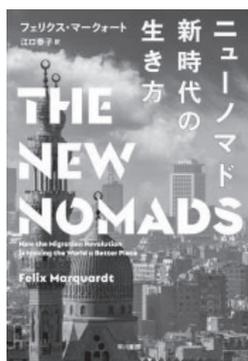
世界中を飛行機で転々とし、ラップトップで仕事をするホワイトカラー、即ちデジタルノマド。著者の語るニューノマドとは彼らだけを指すのではない。冠された「ニュー」には「手つかずの」という意味も含まれていると思しい。グローバル化がもたらした功罪によって生まれ落ちた場所から新たな地へと移り住んだ人びと。各人各様のエピソードから、ノマドをめぐる現在と将来について検討する。これが本書の筋立である。

移住先に根差す彼らの暮らしはノマドの原態へと遡っている。草原を歩き、その場所と調和して生きる遊牧民の精神を体現しているというのだ。そして彼らの

存在が相互理解を促し、環境を良い方へと変えていく。ノマドとはその土地の人びとへの生成変化なのである。

早川書房

二八六〇円



日航123便 隠された遺体

青山透子著

著者は元日本航空の客室乗務員でノンフィクション作家の青山透子さん。これまでも関連本を出版しており、今作で八冊目となる。

著者は事故から二十数年後、疑念を抱き独自取材を続けてきた。事故から三九年経つ今、フライトレコーダーの情報開示裁判が行われ、高裁・最高裁へと進む中で新たな真実が浮かび上がってくる。著者が「事故」ではなく「事件」だとする日航123便の新たな真実に迫る。

河出書房新社

一九八〇円

今月の
おすすめ

コンピュータ

独学で鍛える数理思考

先端AI技術を支える数学の基礎

古嶋十潤著

数学は、情報検索や商品推薦、さらにはChatGPTに代表される文章生成や画像解析など、AI・データ活用技術の根本を成している。各企業においてはそれらの数理的手法を理解し、実務レベルで価値を創出できる人材が必要とされている。しかし現在、日本では学生の理数系離れなどが原因となり、その育成が難しい状況だという。その溝を埋めるために執筆されたのが本書である。我々の生活に密着する先端AI技術の数々。その内部で働く数理を全六章に濃縮し、独学で身に付けられる一冊だ。題材として取り上げられているのは、検索キーワードの数値化をはじめ、文章生成を実現する上で広く利用される数理モデルの「Transformer」など。各章ごとの解説はテーマに即した数式やグラフが共に配さ

れ、細やかである。誠実な筆致が読み手の学習意欲をかき立て、容易には理解しにくい数理思考が本書を読み通すことで確かな手応えをもって感じられる。

技術評論社

三五二〇円



7日間でハッキングをはじめ本

野溝のみぞう著

野今、その脅威が強く認識されているサイバー攻撃。エンジニアではなくともセキュリティの知識と必要性を感じている読者も多いはずだ。ハッキング対策のためには、攻撃者の思考を知ることが肝心。その第一歩として本書では七日間でハッキングの基礎的なテクニックを学ぶ。その際使用されるのが「TryHackMe」というクラウドサービス。攻撃対象、いわゆる「やられサーバー」の構築が容易

で、ハッキングの手順が「タスク」として表示されるため、手早く学習を始められる。本書ではターゲットのパスワード解析とマシン侵入、Wordpressの脆弱性を突いたサーバーのハックなどを実践していく。シリアスなテーマを軽快にレクチャーしてくれる文体も読みどころのひとつ。構えずに手にとってほしい。

翔泳社

二八六〇円

混植の本

フロップデザイン著

このフォント、漢字の形や雰囲気は文章の内容とパッチリ合っているんだけど、かなの方がどうもしっくり来ない。そんな時にプロがおこなっているのが「混植」。二種類以上のフォントをつかった文字組みのことだ。歴史小説のタイトル風からYouTubeの動画サムネイル用まで、テーマに合わせた混植の例が三百種類以上も掲載されている。同じテキストでもフォントの組み合わせ次第でこれほど印象が変わるのかと、驚くこと請け合いだ。

エムディエヌコーポレーション

二二〇〇円



自然科学

数の辞典

澤 宏司著 廣崎遼太郎絵

雷鳥社の辞典シリーズ最新刊のテーマは「数」である。

「数」はすごい。無から無限、この世に起こる多くのことを表すことができる。

この「数」をことばで言い尽くそうとするのは難しい。なぜなら「ことば」と「数」は竜虎相搏、どちらも多くのことを含んでいる。では、「単語」ならどうか。

そこで手にとって欲しいのが本書である。先史時代から現代まで、時代の流れに沿って「数」に関する単語で綴る辞典だ。一単語につき、一ページから見開き二ページ。簡潔ながら決してすかすかではない。掌に載るサイズ感の本体といえなんとなく「ちょうどいい」仕様になっている。

「数」の入門に、無聊を慰めるのに、十人十色に楽しめる一冊だ。

雷鳥社

一九八〇円

天才なのに変態で愛しい
数学者たちについて

郷 和貴著 千葉逸人監修
和田ラヂヲイラスト

偏見なのかもしれないが、数学を好む人には個性的な人が多いと感じていた。こんな本が出るということは、同じような事を考えている人が少なくないということだと思う。本書は数学者の、業績ではなくパーソナリティに焦点をあてたものだ。

たとえば紀元前の賢人ピタゴラスは三平方の定理も有名だし名前も通っているし偉業は多いのかもしれない。だが自身を神格化することに腐心していたり教を乞うて入門する者からすべての財を寄進させたりと、人として尊敬できるかといわれたら少々疑問も残る。万有引力のニュートンだつてそうだ。微分積分法やプリンキピアなどその足跡は極めて大きいのに人としての器は結構小さい。他にもフーリエ、ガロア、ラマヌジャンなどなど錚々たる面々のエピソードが紹介されている。思うに、名を成す人は歩調を合わせるとか空気を読むとかが苦手のかもしれない。皆そこそこの俗物だ。

KADOKAWA

一七六〇円

動都 移動し続ける首都

坂 茂編著

光多長温／三宅理一著

SF映画のタイトル(『移動都市／モータル・エンジン』クリスチャン・リヴァース、二〇一八年)ではない。「動都」とは、オリンピックさながらに、数年おきに仮設の国会議事堂を含む「仮設首都」の誘致合戦を繰り返すという構想である。

「首都機能移転」の構想は、過密過疎問題の対策や災害対策の強化として、一九六〇年代から国会でも議論されていたのであるが、やがて「首都移転絶対反対」を公約とした石原慎太郎都知事の誕生によって、議論は凍結されることとなる。現国会議事堂の耐震補強問題が浮き彫りとなった今こそ、一極集中是正と地方創生を見据えた「首都移転論」復古の好機であるのだ。そしてそれは、先に挙げたSF映画の世界(世界各国の大都市が一極集中の末に「動く要塞」となってしまう未来)にならないためにも、「移動し続ける首都」でなくてはならない。

平凡社

三九六〇円

今月の
おすすめ

医学書

本物の医学への招待

驚くほど面白い手術室の世界

北原大翔著

私は本物の外科医です。

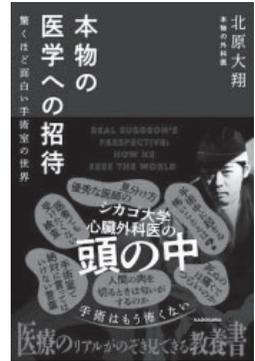
あなたの命を救うかもしれない、あなたが最も会いたくない人物です。

本書の冒頭にそうあるように、著者はアメリカ・シカゴ大学で働く現役の心臓外科医である。本書では、そんな著者が日本とアメリカ両国での経験から、病院・医療の実態や、手術室で起こることを医師の視点から語っている。

よりリアルに、より多くの人に読んでもらえるように、手描きの図や解説も多く、医療関係者以外でも楽しめる内容だ。Q&A形式ですべて1ページに収められていて非常に読みやすくなっている。著者本人が医療情報を発信する、総再生回数三億回のYouTubeチャンネルも併せてチェックされたし。

KADOKAWA

一八七〇円



「社会モデルで考える」

ためのレッスン

障害者差別解消法と合理的配慮の
理解と活用のために

松波めぐみ著 障害を持つ人に対する

「合理的配慮」とはなんだろう。二〇二四年四月に法改正された障害者差別解消法において、事業者に対して義務化されたそれをちゃんと理解している人は少ないだろうと著者は言う。障害のある人に何かしてあげること、思いやり、特別なサービス、優遇。このように想像する人は多いだろうが、全くの誤解である。著者は「合理的配慮」への理解には「社会モデル」の考え方が不可欠だと言う。

「障害の社会モデル」とは、障害のある人が制限や損害を受けるのは、その人の心身の損傷のせいではなく、「多数派

に合わせて社会がつくられてきたために、さまざまな社会的障壁があるから」と考える枠組みのことである。障害があるからしかなかったが、ではなく、多数派中心の社会がバリアを作っているせいで起こる問題と捉え、バリアを取り除くように行動できる人が増えてほしい、著者はそう語る。

本書は、雑誌「ヒューマンライツ」に連載していたものを例にあげて「社会モデル」とはなにか、に触れる第一部と、「社会モデル」にまつわる著者の個人史の第二部という二部構成になっている。エッセイ形式でどこからでも読み始められるので気軽に手に取ってみてほしい。とつきにくい法律などへの考え方のヒントももらえるおすすめの一冊。

生活書院

二七五〇円





人文科学

カノツサ 「屈辱」の中世史

シユテファン・ヴァインフルター著

一〇七七年、中世ヨーロッパを大きく揺るがせた、あの「カノツサの屈辱」が起きた。

神聖ローマ皇帝ハインリヒ四世と教皇グレゴリウス七世の熾烈な覇権争い、「叙任権闘争」を事件の背景からその後の影響まで、ドイツを代表する中世史家が豊富な資料に基づき詳細に解説する。

八坂書房

三五二〇円

古代インドの神秘思想

堅部正明著

古代インド思想の本質を明らかにした、インド思想入門の良書。

ウパニシャッドの本質を神秘思想と性格づけることができるとして、古代的な表象、観念や、呪術などから思想的に説明していく。

また初期ウパニシャッドの核心でもあ

る「アートマン」と「ブラフマン」についても実にわかりやすく説明されている。インド思想について学ぶ最初の一冊としておすすしめしたい。

法蔵館文庫

一二一〇円

詩の畝

フライリップ・ベックを読みながら

ジャック・ランシエール著

ランシエールによる、マラルメに次ぐ二冊めの詩（人）論。もとより文学への言及も多く、定評もある著者だけに、本書も大いに興味深いところだが、ではいつたいフライリップ・ベックとは誰なのだろうか。

ベックは現在、大学で教鞭をとる哲学者にして詩人である。過去の詩人の詩行という畝を掘り下げるようにベックもまた詩の畝を辿り、書き直し、新たに刻んでゆく。その行為を現代のわれわれが読む。そこにこそ本書の価値があるといえるだろう。

法政大学出版局

二九七〇円

雨の日の心理学

二ころのケアがはじまったら

東畑開人著

予期せずはじまってしまいう身近な人のこころのケアを担う我々「素人」に向けた新たな精神分析の入門書。

ユーモアを交えた軽快な文章ながら、クラインやビオン、ウイニコットなどの名だたる精神分析家の理論と、実践としての技術を惜しみなく凝縮し、ケアのつらさと楽しさを教えてくれる。

最終章「ケアする人をケアするもの」や、巻末のブックガイドも公私共にケアする立場の人に響くものがあるだろう。

KADOKAWA

一七六〇円

引き上げのイギリス式教育、 底上げの日本式教育

土屋明日香著

夫が大学に職を得たのに伴い、英国中堅都市に移住した著者による教育論。当地で二人の子どもを育てた経験をつまみ、幼児教育・学校現場の心理職として活躍した著者が詳述する。英国教育の、個別最適化の徹底ぶりや、公立でも校長の裁量によって、学校の評価を急上昇させたケースなどが興味深い。

日本評論社

二二〇〇円

今月の
おすすめ

文学・文芸

バリ山行

松永K三蔵著

バリ山行の「バリ」とはバリエーションルートの略であり、廃道や高難度ルートなど通常の登山道ではない道を指す。主人公である波多は社内企画された山登りに参加する。波多は気楽な山登りにハマり、登山部の一員となる。そんな登山会に、気難しく煙たがられている妻鹿も参加した。登山後、妻鹿が毎週「バリ山行」していることを知る――。

妻鹿と仕事を共にした波多はバリ山行への同行を志願する。妻鹿との山行は、読者も自らその後ろを歩いている感覚にさせられる。

山行、仕事、人生、それぞれに訪れる危機に対し「本物の危機」とは何かを考えさせられる作品であると感じた。妻鹿の危機に対する考え方は単純で、複雑になった社会や我々の頭を解してくれる。ぜひみなさんも妻鹿氏の後ろを歩い

て、その考え方や優しさに触れてほしい。

第一一回芥川賞受賞作。

講談社

一七六〇円

カラフル

阿部暁子著

病気で車いすユーザーとなった渡辺六花と、怪我をして陸上を続けることができなくなった荒谷伊澄。それぞれの事情で夢を諦めた彼らが、高校の入学式の朝、駅のホームで出会うところから始まる、再生と恋の物語。透き通っていて、きらめいていて、なにより真つすぐだ。だからこそ汗臭く、ときに怖いくらいに鋭利。

そんな、私も過ごした遠い昔の一瞬一瞬が思い出され、ページをめくるたびに当時の自分が見えてくるようだった。しかし、とある行事のグループ分けをきっかけに、「差別」についての話し合いが始まったあの教室には、大人になった今の自分が座っていたように思う。

社会人になりたてのころ、上司に日頃の思いの丈をぶつけたことがあった。伝えればわかってもらえない。私はそう信じて疑わなかった。しかし現実はそのようでなく、結局その理想と現実の違いに耐え

切れず、そのまま退職をした。

あの頃の私はどんな気持ちで人と接していたのだろうか。褒めてもらいたかったわけでも同情してもらいたかったわけでもない。ましてや喧嘩がしたかったわけでは決していない。しかしそれにしても、自分は間違っていない、自分の意見は多数派だと信じて疑わず、ただただ傲慢だった。大演説している自分に酔っていただけで、目の前にいる誰かを意識などしていなかったのかもしれない。

常に相手の気持ちを想像する。そして出会う人ひとりひとりに敬意を払い、誠実に接する。そうしなければ、宗教や思想、人種、立場など関係なく差別は簡単に起こりうる。わかってもらうために、わかり合うために、どんな言葉をどんな風に伝えればいいのか。そう考えることは、人と人が生きていく上で欠かせないことだ。

『カラフル』というタイトルは、青春の甘酸っぱさだけが詰まった言葉ではない。多様性が謳われる時代に合わせただけの言葉でもない。この物語から、子どもにも大人にもそれを感じてほしい。

講談社

一七六〇円

今月の
おすすめ

文庫・新書

幽霊を信じない理系大学生、
霊媒師のバイトをする

イヌグニョバ
柞刈湯葉著

タイトル通りに理系大学生である主人公の谷原豊（十八歳）が、曾祖母の死をきっかけに出会った霊媒師の元でアルバイトをしながら、「他人の気持ちが変わらない」という自身の悩みに向き合い、ちよつと変わったたり変わらなかつたりする物語。

霊媒師は鵜沼ハルと名乗り、曾祖母の友人であるというが、享年一〇〇歳で大往生した曾祖母の友人にしては見た目は四〇代ぐらいだった。

そして霊媒師の仕事は、世間でイメージされるような呪文や念仏を唱えるようなものではなかった。理にかなっているといえはそうなのだが、本当にそんなことで霊が成仏するのか、そもそも成仏とは？と疑問を持ちながら豊は霊媒師のアルバイトを続けていく。そこに小学生の

頃からの友人との苦い記憶や、街の秘密がからみ、物語は思わぬ方向へ転がっていく。

鵜沼ハルの正体とは。そして街の秘密とは。霊を信じない豊がアルバイトを通して死者とその記憶と向き合う様は、私たちにも同じように身近な、またはそうでない死者の姿とその記憶がよみがえってくるように思えてくる。

新潮文庫nex 七八一円

東大ファッション論集中講義

平芳裕子著

ファッションに興味はお持ちだろうか。神戸大学准教授である著者が、東京大学文学部にて二〇二三年に行った集中講義の内容を書籍化した本作は、ファッションと聞いて日常で着る服のコーディネートやハイブランドの最新のコレクションなどを思い起こしたりする側としては、目次の項目を見ただけでわくわくするような内容で、よくぞ書籍にしてくれた、と思ってしまう。

しかし「ファッション」という言葉のなかにはきらきらやわくわくばかりではなく、服そのものの、服を着ること、その

服がどういう経緯でできているのか、そこに何が表現されているのか、歴史の中でどのような役目を果たしてきたのかなどの様々な「論」が含まれている。

著者はファッションを研究するにあたり、「ファッションは浅い」という言葉を投げかけられたとのことだが、こんなにたくさん考えることがあるというのは、「ファッションとは儲けうづろいやすいもの」であるがゆえに、その時代や社会を反映し、様々な観点から論ずることのできる興味深い研究対象であると言える。

もちろん私たちはそんなことを毎日いちいち考えながら毎日服を選び身にとまとうわけではない。ただ、本書を読めば、今までは違った目で服について考えることができるようになるだろう。

ちくまプリマー新書 九九〇円



今月の
おすすめ

芸 術

増補版 印刷・加工D-I-Yブック
大原健一郎十野口尚子十橋詰 宗十グラ
フィック社編集部著

昨年ひょんなことから本（ZINE）
を作ることになった。撮り溜めていた写
真にゆるゆるの文章を並べてレイアウト
してネットで発注したら本ができた。好
評を得て今年も作るようになってしまっ
た。二冊目はどうしたものかと途方に暮
れていたところ目の前にこの本が。すつ
かり忘れていた。本はDIYでできる。
中身を見てみると印刷も加工も綴じ方も、
沢山のテクニクが載っている。増補版
とあって前の版から三十二ページの増。
この本さえあれば電子書籍にはない物体
としての紙の本の良さを存分に活かした
本が出来上がること間違いなし。綺麗に
できなくてもいいし、歪さが味になった
りもする。凝りに凝ったシャレオツなモ
ノが作れるかも。ああ！中身がない！
グラフィック社 二九七〇円

ホラー映画の科学

ニーナ・ネセス著 五十嵐加奈子訳

ホラー映画がとても苦手だ。できれ
ば観ないで生きていたいと思っている。
じゃあ観なければいいんじゃない？そう言
われそうなのは重々承知なのだが、ここ
数年気になるホラー映画がたくさんあつ
て悩ましい！怖さ以上に内容が気にな
るとか、ホラーとはちよつと違う名作を
撮った監督の配信過去作がホラーだと
か、理由は様々。そんな時にこの本を見
て思わず手に取った。

著者は生物学者としてデモンストレー
ション等を通じて科学を分かりやすく伝
えることを本職とするホラーマニア。ホ
ラー映画を観る時に私たちの脳や体に起
こっていること、恐怖が付きまとう理由、
そして克服する方法等から、ホラー映画
の本質を分かりやすく説明してくれる。
「恐ろしそうだから」「ホラー映画に分類
されているから」素晴らしい作品かもし
れないけど手を付けられなかったという
作品がある方には特におすす。読んで
けどやっぱり観るのは……それもまたO
K！読んだことは無駄じゃない。読み
物としての面白さがあるのだから。

フィルムアート社 二七五〇円

朝と夕

ヨン・フォッセ著 伊達朱実訳

天台宗の僧侶、酒井雄哉の著作に『一
日一生』（朝日新書）という本がある。
字面の通り一日を一生のように捉えよ、
という意味の言葉だが、本書『朝と夕』
というタイトルにもまた同じような意味
が込められている。

第一部「誕生」と第二部「死」の二部
構成からなる本書。主人公がこの世に生
を受ける一日と、主人公が死を迎える一
日が各部で描かれるのだが、フォッセは
この一日の出来事の中に、数多くの登場
人物たちの濃密な人生を滲ませる。フォッ
セ特有の簡潔だが独特な文体で書かれ
た、何気ない会話や回想の奥に、登場人
物たちが確かに生きている、あるいは生
きてきた、証が見て取れる。

人の一生の始点と終点を切り取った本
作は、間接的にその間に積み重ねてきた
時間を描く。一生の中に一日があり、一
日の生活の中に一生があるような、不思議な読後感が楽しめる作品だ。

国書刊行会 二四二〇円

今月の
おすすめ

実用書
地図・旅行書

東京降りたことのない駅

本橋信宏著

世の中で忘れ去られたもの、あるいは気にも止められていないもの、いわゆる日陰の物に対して鮮烈な光をあてることを執筆テーマとしている著者ならではのこの「降りたことない駅」というタイトルはまさに真骨頂。日常のなかで気にも止めなかったことに気付かされる絶妙なネーミングである。

調べてみると、東京都に登録されている駅は六六〇箇所にもほるようで、圧倒的に降りたことのない駅が多いことを改めて気付かされることになる。本書には十九路線二十二駅が紹介されているが、いずれも主要な駅ではなく、その他大勢に属する見落としがちな駅である。しかしながら、その駅々にも知られざる歴史があり、そこに生活する人々の息づかいがあることを、著者は鮮明に物語る。ある駅での話だが、現在ではその名を聞

けば誰もが知っている超有名な作家と死刑判決基準となっている事件を起こした射殺犯が同時期にこの駅周辺に暮らしていて、ひよっとすると街中で擦れ違っていたかもしれないという歴史の妙を語ってくる。

そんな著者の深掘りしてくる文章に心が踊らされ、自然と興味も湧いてくる。休みの日にはこの本を片手に「降りたことのない駅」に出かけてみようと思ってしまう。まさに著者の術中にはまっている自分に気付かされる会心の一冊である。

大洋図書

一九八〇円



見て、読んで楽しむ
世界の料理365日
青木ゆり子著

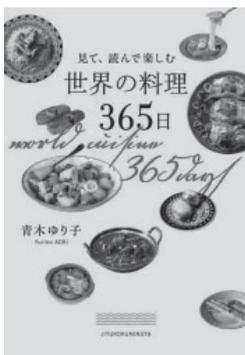
読み物として軽すぎず重すぎない絶妙

のバランスを保ち、かつ写真もきれいと人気のシリーズ『〇〇の365日』に、遂に世界の料理が登場。これまでのパランスの良さは保持しつつ、今作はレシピもそここちにちりばめられているのが嬉しい。

料理写真が三十六枚だと、やつぱり色合い的に茶色に偏るんじゃない?と思われるかもしれないが、さにあらず。鮮やかな黄色が美しいマカオの「カレークラブ(咖喱蟹)」、落ち着いた紅色が食欲をそそるアーミッシュの「ペンシルベニア・ダッチ・アップルバター」、若い豆やキュウリの緑色が美しい「打滷麵」……。写真と文章の両方が、あなたを行なったことのない場所、食べたことのない料理の世界へ誘ってくれるだろう。

自由国民社

一九八〇円



今月の おすすめ

語学・辞典

名作英文解釈精選

明治・昭和の英語入試問題の原典を読む
八木克正著

明治・昭和期の英語入試問題の大典となった英文を収録した、上級者向けの英文解釈書。百年以上前の英語を読むための文法知識も、豊富な例文とともに解説している。文法・語法研究を牽引してきた著者の手ほどきを受けながら、ディケーンズからホーソン、ラッセルまで、英米文学が花開いた時代の名作を味わうことができる。理解が難しかった英文にも著者曰く「干物を水で戻すように断片になつていた問題文を文脈の中に戻し、生き生きとした文章として読み直し味わいが出てくる」そうだ。

文法や語法は歴史的観点から解説されており、英語史に興味のある読者にも読み応えのある内容で、言語学の観点から有益な本である。

大修館書店 二八六〇円

シンプル・丁寧・効果的な ビジネス英会話のコツ 96

伊藤日加著

本書は、ビジネス英会話に必要な思考法と実践で使える会話例を紹介した書籍である。最初に「グローバルで活躍するために知っておくべきこと」の思考法を紹介している。

例えば「日常英会話と比べてビジネス英会話の方が難しい」というイメージに誤解があると著者は主張する。

その理由に、日常英会話という語から想定される場面は無数にあるのに対して、ビジネス英会話を使用するのは仕事関係の場面に限定されている。その結果、会話で使用する単語や定型文も限られているので、慣れてしまえば学習難易度は後者の方が低いという論理である。

会議室や仕事を頼む時など、場面別に起こる会話例を掲載しており、OK・NGの会話例の比較、会話時の相手の意図まで丁寧に解説している点がわかりやすく良い。

ビジネスシーンで会話をすることに不安を持っている方にオススメです。

あさ出版 一九八〇円

世界の春日プロジェクト チャンクで学ぶ英会話

NHK「世界の春日プロジェクト」制作班

お笑いコンビ「オードリー」の春日俊彰さんが一年間かけて英語を学習する様子に密着し、その成果を披露したNHK総合とEテレの番組から生まれた、使える英会話本。

「もし春日が入国審査で引っかかったら」「もし春日が海外のホテルでトラブルに遭ったら」など、春日さんらしさを前面に活かした笑える会話を例に解説。ただそんな春日さんのキャラクターから生まれる面白さだけの本ではなく、チャンクという「言葉の塊」に注目して会話表現を丸々覚えるという方法が、非常に実用的な内容となっている。

「まあまあだ」「それは人によります」「どちらとも言えない」「しいて言えば」など、お笑いの中という特殊な状況だけでなく実際の会話で使える表現がこれでもかと詰め込まれている。内容の濃さはさすがNHKの番組と言わざるを得ない。イラストや春日さんのコラムで笑い、英会話も身につくお得な一冊だ。

双葉社 一五四〇円

今月の
おすすめ

児童書

天国にたまねぎはない

久米絵美里著

「たまねぎを一個持つて来てくれ！」と死んだはずのいところから連絡が来た。天国では、皆が幸せでないといけない。だから必然的にたまねぎも禁止されているが、結構恋しがつている住民がいるので「ビジネスチャンス！」なのだそう。その日から、ほくは天国にたまねぎを密輸するバイトをする事になった。

平凡な中学生のキートに、突然訪れた非日常。バイトの流れで、死後も更新され続けているいとこのSNS乗っ取り犯を探す事になったり、いとこの知り合いに会ったり。そして「ある真実」に辿り着いた時、キートの選んだ選択肢とは……。様々な人間の、様々な考え方があり、その考えは行動する事により、他者に多少少なな影響を与える。「心」について考えさせられる一冊だ。

幻冬舎

一七六〇円

ねこさんかぞくの

ミュージアム

ルーシー・ブラウンリッジ文

ソ・ウニヨン絵 石津ちひろ訳

絵画に描かれたドアの向こうを想像したことはあるだろうか？ もしないのであれば、試しにぜひ実践してみてほしい。何だかすごくわくわくするはずだ。この「このドアの向こうのわくわく」を思う存分に味わえるのが本作『ねこさんかぞくのミュージアム』である。

物語の舞台は多様な動物たちがまるで人間のように生活する世界。主人公のねこさん家族は週末のお楽しみとしてミュージアムに足を運ぶ。ねこさん家族がミュージアムで世界中のあらゆる文化を鑑賞している様子を眺めているだけでもわくわくできるのだが、なんとこの絵本にはページについていたフラップをめくると、その下に隠された絵を覗き込めるギミックがついている。フラップの数はなんと百四十四というから驚きだ。本作がお気に召したら前作にあたる『ねこさんかぞくのクリスマス』もぜひチェックしてほしい。

ブロンズ新社

二六四〇円

世界のふしぎは、きつと誰かの
仕事でできている。

田丸雅智著 フルカワマモる絵

昨日の空と今日の空、同じように晴れていても全く違って見えるのは、職人の手仕事で染め上げられているから。他とは違うカラスの鳴き声が聞こえてきたら、そのカラスはボイストレーナーに鳴き方を指南してもらっているかもしれない。友だちとケンカした後相手に怒っていたはずなのにいつの間にかまた仲良くなっていた時、その旨の中の怒りの炎を消してくれたのは……？

日常のどこにでもあるふとした不思議。もしかしたら気づかないまま過してしまっているかもしれないそんな不思議を作り出す人たちを描いたファンタジー。

Gakken

一一〇〇円



『世界の発酵食をフィールドワークする』

今嶋 夕葵

書店を目的もなくぶらぶらしていた時に、偶然この本を見つけた。まず『世界の発酵食をフィールドワークする』というタイトルに惹かれた。タイトルだけで驚いたことが二つある。一つは世界中に発酵食品が存在していること。もう一つは、発酵食を巡って世界を旅している研究者がいるということ。魅力的なタイトルに心惹かれながら読み進めてみると、やっぱり面白い。美味しいものを食べ歩く軽いグルメ本とは違う。これは、各地域をフィールドワークしながら発行に関わる細菌を研究している研究者たちの記録である。だからといって決して小難しい論文集ではない。コーヒーパー手に気軽に読める。

トウモロコシと干した草を発酵させた酒を食事に行っているエチオピア人。メコン川で獲れた魚を熱帯の暑さでペースト状になるまで発酵させたパデーク。馬の

乳を発酵させ酒を造ることに成功したモンゴルの遊牧民。さらには発酵食の製造には欠かせない微生物の地域性についてまで。この一冊で、その土地の風土、人々の暮らし、製造する技術、発酵食品を生み出すまでの歴史が綴られる。まさか発酵食品をもって世界の文化を語れるなんて思ってもみなかった。

発酵食が美容と健康によいとメディアにとりざたされるようになったのはごく最近だが、人類が食品を発酵させてきた歴史は、火を使って調理した歴史より長いという。今までまったく知らなかった世界に足を踏み入れ、ワクワクがとまらない一冊だ。

(25歳・会社員)

*『世界の発酵食をフィールドワークする』

(農山漁村文化協会・横山智編著・二〇九〇円)

『世界はひとりの、一度きりの人生の集まりにすぎない。』

中島 絵理子

どうしよう、初っ端から違和感だらけだ。

これはまずい。

著者の林さんは、noteで恋愛相談等に答えたりするほか、奥さんに怒られたりしたちよつと情けない日記などを披露されている。

私は毎日それを読み続け、すっかり親戚のおばさんのような身内気分でののだ。

そこへ来て、『世界はひとりの、一度きりの人生の集まりにすぎない。』だ。こんな素敵な短編集、ちよつとこそばゆい気持ちにもなるうと言うものだ。

小さい風としゃべったり。ダムの底をのぞいたり。王様、お姫様のいる世界。切ない恋。夢の中での暮らし。どれもこれも少し不思議でふんわりやさしい。そして続きが気になる、絶妙に余韻を残してくれる「一度きりの人生」。

私のお気に入りは小さい風の物語。ドラえもんに台風のこどものフー子が出てくる話があるが、それを思い出した。フー子の少し悲しい結末がよぎったが、小さい風は元気に去っていく。カルヴァドス・ソーダが飲みたくなつた。

気づけば違和感は消えていた。

違和感の正体は、このお伽話の中にちらちらと見えるnoteでの林さんの口癖（書き癖？）だった。しかしそれも一つの味わいとなつてくる。

この本に集められたちよつと切なく、ちよつと頬のゆるむ一度きりの人生。本なら全部、何度でも味わえますよ。

（52歳・派遣社員）

*『世界はひとりの、一度きりの人生の集まりにすぎない。』

（幻冬舎・林伸次著・一八七〇円）

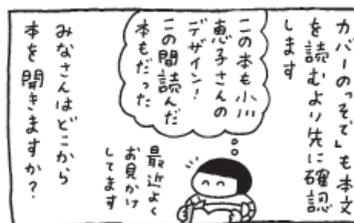
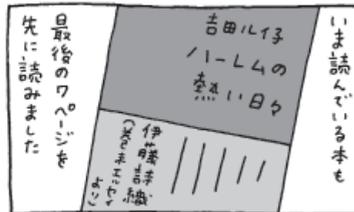
ATION

<p>丸善 = ヒルズウォーク徳重店 = ☎(052)846-2610 〔営業時間〕10時～21時半</p> <p>丸善 = イオンタウン千種店 = ☎(052)715-7911 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 豊田T-FACE店 = ☎(0565)41-3282 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 名古屋栄店 = ☎(052)212-5360 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 名古屋店 = ☎(052)589-6321 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 岐阜店 = ☎(058)297-7008 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 四日市店 = ☎(059)359-2340 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 滋賀草津店 = ☎(077)569-5553 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 京都本店 = ☎(075)253-1599 〔営業時間〕11時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 松坂屋高槻店 = ☎(072)686-5300 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>丸善 = 高島屋堺店 = ☎(072)225-0930 〔営業時間〕10時～19時半</p> <p>丸善 = セブンパーク天美店 = ☎(072)339-7330 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>MARUZEN & ジュンク堂書店 = 梅田店 = ☎(06)6292-7383 〔営業時間〕10時～22時</p> <p>丸善 = 八尾アリオ店 = ☎(072)990-0291 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>丸善 = 高島屋大阪店 = ☎(06)6630-6465 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 大阪本店 = ☎(06)4799-1090 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 難波店 = ☎(06)4396-4771 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 天満橋店 = ☎(06)6920-3730 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 上本町店 = ☎(06)6771-1005 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 近鉄あべのハルカス店 = ☎(06)6626-2151 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店 = 榎原店 = ☎(0744)29-0781 〔営業時間〕10時～18時半</p> <p>ジュンク堂書店 = 奈良店 = ☎(0742)36-0801 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 西宮店 = ☎(0798)68-6300 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 芦屋店 = ☎(0797)31-7440 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 神戸住吉店 = ☎(078)854-5551 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 三宮駅前店 = ☎(078)252-0777 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 三宮店 = ☎(078)392-1001 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 舞子店 = ☎(078)787-1250 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 明石店 = ☎(078)918-6670 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 姫路店 = ☎(079)221-8280 〔営業時間〕10時～20時</p>	<p>丸善 = 岡山シンフォニービル店 = ☎(086)233-4640 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = さんすて岡山店 = ☎(086)230-3001 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = 広島店 = ☎(082)504-6210 〔営業時間〕10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 = 広島駅前店 = ☎(082)568-3000 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 高松店 = ☎(087)832-0170 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 松山店 = ☎(089)915-0075 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>丸善 = 博多店 = ☎(092)413-5401 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 福岡店 = ☎(092)738-3322 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 鹿児島店 = ☎(099)216-8838 〔営業時間〕10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 = 那覇店 = ☎(098)860-7175 〔営業時間〕10時～21時</p>
---	--	--	--

<p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 札幌店 ＝ ☎(011)223-1911 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 旭川店 ＝ ☎(0166)26-1120 [営業時間] 10時～19時半</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 盛岡店 ＝ ☎(019)601-6161 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 秋田店 ＝ ☎(018)884-1370 [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善 ＝ 仙台アエル店 ＝ ☎(022)264-0151 [営業時間] 10時～21時 日・祝 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 新潟店 ＝ ☎(025)374-4411 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 郡山店 ＝ ☎(024)927-0440 [営業時間] 10時～19時</p> <p>丸善 ＝ 水戸京成店 ＝ ☎(029)302-5071 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 日立店 ＝ ☎(0294)32-7401 [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善 ＝ ジョイホパーク吉岡店 ＝ ☎(0279)26-9534 [営業時間] 9時～20時</p>	<p>丸善 ＝ スマーク伊勢崎店 ＝ ☎(0270)75-4590 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 丸広百貨店飯能店 ＝ ☎(042)973-1111 [営業時間] 10時～19時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 大宮高島屋店 ＝ ☎(048)640-3111 [営業時間] 10時～21時</p> <p>9月24日 OPEN! ジュンク堂書店 ＝ エミテラス所沢店 ＝ ☎(04)2969-0603 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 桶川店 ＝ ☎(048)789-0011 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 津田沼店 ＝ ☎(047)470-8311 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 舞浜イクスピアリ店 ＝ ☎(047)305-5808 [営業時間] 11時～21時 土・日・祝 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ ユニモちはら台店 ＝ ☎(0436)26-7620 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 南船橋店 ＝ ☎(047)401-0330 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 丸の内本店 ＝ ☎(03)5288-8881 [営業時間] 9時～21時</p>	<p>丸善 ＝ 日本橋店 ＝ ☎(03)6214-2001 [営業時間] 9時半～20時半</p> <p>丸善 ＝ お茶の水店 ＝ ☎(03)3295-5581 [営業時間] 月～土 10時～20時半 日 10時～20時</p> <p>丸善 ＝ 多摩センター店 ＝ ☎(042)355-3220 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 有明ガーデン店 ＝ ☎(03)5962-4180 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 有明ワンザ店 ＝ ☎(03)5530-5701 [営業時間] 10時～19時半</p> <p>丸善 ＝ メトロ・エム後楽園店 ＝ ☎(03)5684-5130 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 池袋本店 ＝ ☎(03)5956-6111 [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ プレスセンター店 ＝ ☎(03)3502-2600 [営業時間] 11時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 大泉学園店 ＝ ☎(03)5947-3955 [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 吉祥寺店 ＝ ☎(0422)28-5333 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 立川高島屋店 ＝ ☎(042)512-9910 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 横浜みなとみらい店 ＝ ☎(045)323-9660 [営業時間] 11時～20時</p> <p>丸善 ＝ ラゾーナ川崎店 ＝ ☎(044)520-1869 [営業時間] 10時～22時</p> <p>丸善 ＝ 日吉東急アベニュー店 ＝ ☎(045)594-8960 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ＝ 藤沢店 ＝ ☎(0466)52-1211 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 松本店 ＝ ☎(0263)31-8171 [営業時間] 10時～20時</p> <p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 新静岡店 ＝ ☎(054)275-2777 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ 名古屋本店 ＝ ☎(052)238-0320 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ＝ アピタ知立店 ＝ ☎(0566)91-7170 [営業時間] 月～土 10時～21時 日 9時～21時</p> <p>丸善 ＝ アスナル金山店 ＝ ☎(052)211-9788 [営業時間] 10時～22時</p>
--	---	--	---

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。
 定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。

ブックブレスター



猛暑と台風、暑さと大雨の九月から、やっと秋を感じられるようになってきた。とはいえ、まだまだ暑さは戻ってきそうだし、雨も多いだろう。先日はもうかかるとか、こないだろうと思込んでいたコロナになり、薬の値段に驚愕した。年々短くなっていく秋を、安全に楽しめよう。(緒)

編集後記

投稿募集

☆読者の皆様の投稿を募集しています。最近読まれた本の感想文、本にまつわるエッセイ、など本に関するもの。最近読んでおもしろかった本、感動した本、考えさせられた本を教えてください。四〇〇字×六〇〇字程度で、おすめの本のタイトル、出版社、住所、氏名(ペンネーム可)、年齢、職業を明記の上、お送り下さい。掲載分には二千円の図書カードを差し上げます。なお、原稿はお返しいたしませんのでご了承下さい。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―一五―一五

丸善ジュンク堂書店「書標」編集室係

TEL〇三―五九五六―六一―一

いつも「書標」をご愛読いただきましてありがとうございます。本誌定期購読料は以下の通りです。

定期購読料 年間一六八〇円(送料込)
現金書留もしくは一四〇円切手十二枚で

お申し込み先

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―一五―一五

丸善ジュンク堂書店特急便係

TEL〇三―五九五六―六一―一

FAX〇三―五九五六―六一―〇〇



QRコード

PC・スマートフォンから
<https://www.junkudo.co.jp/>



映画と語学書のフェア

新刊・話題書コーナーとは別にフェア

棚というものがある。夏の文庫や手帳・カレンダーなど毎年決まっているもの以外は、同じ丸善、ジュンク堂書店でも展開されているフェアが違う。もちろん出版社からの提案もあるので、同時期に複数店舗で同じものになることもある。しかし各ジャンルの担当者がそれぞれ発注までするため、店舗ごとに独自のフェアも多々ある。

たとえば私の担当は語学書だが、好きな映画を絡めて洋書を含めた原作本・シナリオ対訳本などで定期的にフェアを開催している。以前は並べる本も映画はハリウッド映画が主流で、そうなる

語書は英語ばかりだった。

そこにここ数年変化が出てきたと思う。なぜ最近タイ語の本がよく売れるんだろう？と不思議に思っていたら、タイBLのドラマがX（その頃はまた「White」だった）でバズっているのを知ってタイ語学習のミニフェアをすべく、急いで選書して注文したのが数年前のこと。

映画やドラマのネット配信サービスが充実したことで、様々な国の映画を言語や字幕を選んで視聴することが可能になった。ヒットした映画やドラマで推しが海外にできた時、以前なら雑誌でしか得られなかった情報が今ほどの国の俳優やアーティストであってもネットやSNSで得ることができ。また、ライブだけではなくファンミーティングで海外遠征することも珍しくはなくなった。

ここで英語以外の外国語をまとめて諸外国語と書くが、諸外国語の場合、英語のように映画でその言語を学ぶ、という

本はほとんど出版されていないので、だいたい入門書などを一緒に置く場合が多い。インド映画といえはヒンディー語かタミル語だと思っていたら、ヒットした「バーバリ」や「RRR」がテルグ語と知ったものの注文できそうな本が一点しかなかった時の衝撃。

中国語の本といえは以前は仕事で使うというお問い合わせが多かったが、ドラマ「陳情令」や「鎮魂」「山河令」などがヒットし、若者に人気がある俳優が雑誌の表紙を飾ることも増えてきた。

これからも趣味として言語を楽しむ皆さんを応援できるフェアをどんどん企画していきたい。

旅先などいつもと違う街で丸善やジュンク堂を見かけたら、ぜひ立ち寄ってみてください。その店舗の担当者が趣味を詰め込んで企画したフェアが展開中かもしれません。

(文)

「書標 ほんのしるべ」 第55号

編集・発行人 西川 仁

発行所 丸善ジュンク堂書店
印刷所 株式会社 旺社

〒104-0033 東京都中央区新川一の二十八の二十三
〒653-0012 神戸市長田区二番町四丁目二十七番地

二〇二四年十月五日発行 頒価五十円（本体四十六円）

東京ダイヤビルディング五号館九階

「書標 ほんのしるべ」昭和61年7月15日第三種郵便物認可
2024年10月5日発行（毎月1回5日発行 通巻第50号）

MARUZEN JUNKUDO × サマリーポケット

預けた本は一覧で管理。タイトルや作者もデータ登録！

文庫本なら1箱に130冊入ります！

サイズ：幅44cm × 奥行33cm × 高さ24cm



丸善ジュンク堂書店のお客様限定プラン

3箱保管プラン

通常
月額

1,485円

最大 30%おトク

990円

5箱保管プラン

通常
月額

2,475円

最大 35%おトク

1,540円

詳細はこちらから



<https://spkt.jp/maruzen>

- ※ バーコードを読み込んで画像やタイトルをデータ登録します。バーコードがないものや読み取ることができないものは、適宜個別に撮影します。
- ※ 価格は全て税込表示です。
- ※ 本プランの対象となるのは、「サマリーポケット」に新規登録される方に限ります。
- ※ 本プランはサービス利用開始後24ヶ月間有効です。（翌月以降は通常料金となります。）

ご利用方法は簡単4ステップ



専用サイトで申し込み



届いたボックスに
本を詰めて送るだけ



預けたものは
PC・スマホで管理



使いたい時、最短翌日に
取り出せる

本の保管場所に悩む、すべての方へ

ジュンク堂書店
淳久堂書店

MARUZEN

頒価 五十円（本体 四十六円）